

2015年7月創刊、日吉・綱島・高田周辺エリアの「地域インターネット新聞」**ダイジェスト版**です

ネットで注目の話題

<https://hiyosi.net>

東急新線、日吉～新綱島～新横浜がトンネルでつながる



新綱島駅と箕輪町を結ぶ「綱島トンネル」工事の様子(3月末)

2022年度下期(同年10月～2023年3月)の開業に向けて工事が進む「東急新横浜線(相鉄・東急直通線)」で、3つあるトンネルの掘削が4月下旬までに終わり、日吉駅から新綱島駅、新横浜駅を経て、相鉄線と接続する羽沢横浜国大駅(神奈川区)まで約10キロが地下でつながりました。住宅が密集し、地盤の柔らかい場所も点在する港北区内

での掘削は苦勞が多く、昨年6月に新横浜駅近くの環状2号線上で**陥没事故**が連続し、翌7月には箕輪町内でトンネル上部にある**道路が盛り上がる現象**も発生しています。



新綱島駅工事の様子(4月24日)

そうしたなかでトンネルの掘削が完了し、新たに設置する**新綱島駅**と新横浜駅でも土木工事をほぼ終えて、各設備やレール敷設などの工事に移っている段階です。

開業後は**1時間あたり4～6本**、朝のラッシュ時間は10本～14本の列車を設定し、東急東横線や目黒線方面へ直通運転を行う計画。相鉄線からの直通に加え、**新横浜駅発着の列車も設定**される見通しで、日吉駅始発の**目黒線列車**も一部残る予定となっています。

日吉・綱島と新横浜という**港北区内の重要エリア**が鉄道でつながることで、利便性がより高まるとともに、相鉄線沿線からの人口流入も見込まれます。

地域のニュース

● 日吉駅前に「図書取次サービス拠点」を新設

横浜市教育委員会などは、予約した図書館の本を受け取り、返却することができる「**図書取次サービス拠点**」を日吉駅前の慶應義塾大学日吉キャンパス(日吉4)「協生館」1階スペースを使い、来年1月に新設すると発表しました。人口36万人超の港北区では図書館が菊名の1カ所しかなく、拡充が求められていました。

● 「宮内新横浜線」高田～新吉田南が4車線化



拡幅した新吉田南交差点付近

昨年12月に2車線で暫定開業した「宮内新横浜線」の高田駅入口交差点と新吉田南交差点までの約960メートルで 拡張工事を終え、3月末から4車線化が完了。高田から新横浜駅方面のアクセスが便利になりました。

● 新綱島「区民文化センター」は2023年秋以降に

東急新横浜線・新綱島駅の上りで建設が進む29階建て再開発ビル内に設けられる「**区民文化センター**」の完成時期について、2年後の**2023年10月以降**になるとの見通しが横浜市会で示されました。同年度内(2024年3月まで)に開業する計画です。

書籍『わがまち港北』完結



2009(平成21)年、港北区制70周年を機に刊行が始まった港北区の**歴史エッセー**書『わがまち港北』(同出版グループ刊)が昨年11月の第3巻刊行で完結しました。

大倉精神文化研究所の理事長・平井誠二さんが**1999(平成11)年1月**に区民向けの情報紙『楽・遊・学(らくゆうがく)』で始めた連載を書籍としてまとめたもので、区の**各地域に眠る歴史**を掘り起こし、同研究所の研究員・林宏美さんも加わり、わかりやすく1話ごとに読み切りで執筆しています。

第3巻の刊行を機に、入手が困難になっていた第1巻と2巻を再発売。区内の**主要書店**とインターネット書店で販売し、価格は1・2巻が1320円、3巻は同1650円(税込)。電子版も刊行。

【発行者より】「横浜日吉新聞」は、2015年7月の創刊から6周年。インターネット上で日々情報を発信中です。港北区南部エリアの「新横浜新聞～しんよこ新聞」とともに、新型コロナ禍においても「地域をつなぐ」役割を強化してまいります。

【発行元】一般社団法人 地域インターネット新聞社
横浜市港北区箕輪町2丁目7-60-2C

【裏面もご覧ください】

日吉堂薬局

<https://hiyosi.net>

昭和6年創業の歴史継ぐ、日吉駅前の老舗「日吉堂薬局」が90周年

東急東横線・地下鉄グリーンライン日吉駅西口から徒歩約1分、日吉中央通りにある「日吉堂薬局」が、3月18日に創業から90周年を迎えました。東急(東京横浜電鉄)開業から5年後、1931(昭和6)年に日吉駅近くで事業をスタート。現在も、日吉中央通りに店舗を構え、日吉周辺の地域に根差した老舗薬局として、地域の人々に親しまれています。

● 日吉台小近くで創業、中央通りに移転

日吉駅前の歴史とともに歩んできた日吉堂薬局。創業者の故・相沢繁さんが、日吉台小学校(同)に近い場所に薬局を開局しましたが、1945(昭和20)年4月の第二次世界大戦でのアメリカ軍による空襲で、薬局は同小学校とともに焼失するという悲劇に見舞われたといいます。



2代目となる「日吉堂薬局」の建物は、現在地に1971年頃に建てられた(日吉堂薬局提供)

その後、日吉中央通りで和菓子店を営む先から、廃業に伴い「土地を交換」するかたちで現在地に移転。

早逝した創業者・繁さんの妻・芳(よし)さんが跡を継ぎ、2代目として経営。3代目の善雄(ぜんお)さん、妻の康子さんとともに、2002(平成14)年に「株式会社日吉堂薬局」を設立した相沢淳さんは、2014(平成26)年に4代目として社長に就任します。

● 地域の「かかりつけ薬局」を目指す

病院などに薬に関する情報を提供するMR職として17年間従事したのち、「ふるさと」日吉に戻ってきた4代目の相沢淳さん。

地域を知る薬剤師として、日吉台小学校の学校薬剤師を務めるばかりでなく、横浜市港北区薬剤師会の副会長も務めながら、地域の「かかりつけ薬局」の存在感を高めるべく日々奮闘しています。



小学生時代に撮影。祖母、父、母と日々を歩んできた(日吉堂薬局提供)



日吉駅西口から徒歩約1分、日吉中央通りにある「日吉堂薬局」(公式ホームページ: <http://www.hiyoshido-ph.com/>)

● IT活用や関係機関とのさらなる連携も

新型コロナウイルス感染症拡大の影響も考慮し、キャッシュレス決済や「オンライン」調剤予約対応にも取り組んでいるといい、「90周年を記念し、ホームページの刷新やLINE公式アカウントの開設も行いました」と、“地域のかかりつけ薬剤師”としてもより大切になると感じるITツールの活用にも力を入れていきたいと語ります。



大規模災害時に掲げる「のぼり旗」を手に

地域の医師会や歯科医師会、訪問看護ステーションや介護事業所、地域ケアプラザなども連携。「こども119番のみせ」としても登録、災害時の「地域防災拠点」への薬の配達、新型コロナ予防接種にも協力しています。

国が求める、関連法規の定める「地域連携薬局」(2021年8月施行予定)も目指しているという同薬局。「薬に関するお困りごとなどがあれば、“お近くのかかりつけ薬局”としてぜひお立ち寄りください」と、90周年を迎えた“老舗薬局”としての使命、そしてその役割を、日々変わりゆくこの日吉の街で果たしていく考えです。

● 日吉堂薬局(日吉本町1丁目20-13、日吉駅西口約1分)
TEL: 045-561-2066 FAX: 045-564-3380
営業時間: 月～金: 9時～19時、土: 9時～15時(定休日: 日・祝)
公式ホームページ: <http://www.hiyoshido-ph.com/>



横浜日吉新聞のツイッター(@hiyosi_net)は9,000人のフォロワー、フェイスブックは「いいね！」が2,290を超えました

